

令和5年度 京都府立南山城支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階・実施段階)

		昨年度の成果と課題		本年度の学校経営の重点(短期目標)	
<b>【教育目標】</b> 「学び合い 育ち合い 自立と社会参加の力を身につける学校」 1 障害による学習上や生活上の困難を改善・克服し、可能性を最大限に伸ばし、自立するために必要な力を身につける。 2 一人一人が個性を発揮し、多様な人々となつながら、社会の中で自らの目標や夢に向かって、主体的に生きていくとともに、共生社会の形成に貢献できる力を養う。		<b>【組織運営】</b> ・ICT機器を活用した情報共有、配付物の削減、プロジェクトの働きかけによる働き方改革を進めることができた。 ・MINAMILABO構想実現のため、地域連携や職員会議での情報共有などを進めていた。一方で大きな変化等がなく学校挙げての取組とは感じられなかった。 ・安心安全な学校作りのための研修などを実施することができた。 ・児童生徒対応については、学部担任や進路、生徒指導などが関わっており、その枠組みが曖昧である。次年度以降、組織としての対応を進めていく。 ・学校分離、働き方改革の視点から組織の見直しを進めてきた。今年度は昨年度総括を活かし校務の見直し等を進める。		1 いのち、安心、安全の重視と確保 (1) 日常的な安全管理システムを確認・徹底し、災害や事故等への備えを整備する。 (2) 医療的ケアの体制を充実し、適切に実施する。 2 授業改善と教育課程の検討 (1) 児童生徒の主体的・対話的な学び合いを大切にし、個々の資質・能力の伸長を目指し、日常的な授業改善を進める。 (2) 学習指導要領に基づきキャリア教育の視点を踏まえ、小中高の系統性のある教育課程の構築を進める。特に中学部と高等部の教育課程のつながりを意識した教育実践を進め、小学部6年間、中・高等部6年間のくくりでの教育課程編成について実践研究を行う。 (3) 個々の児童生徒の実態把握に基づく指導内容の設定のプロセスを丁寧に行い、児童生徒が自立を目指し、学習上、生活上の困難を主体的に改善・克服する自立活動の充実を図る。 3 地域に開かれ、地域と共にある、特色ある学校づくり (1) 社会とつながり、地域の教育的資源を活かした南山城ならではの教育活動を、学校運営協議会を活用しMINAMILABO構想の実現を通して推進する。 (2) 児童生徒の姿や、取組・交流の成果を広く発信し、地域に根差し期待される学校を目指す。 4 関係機関との連携による支援 (1) 保健・福祉等の関係諸機関や保護者との連携のもと、特別支援学校が担うべき修学に係る支援を進める。 (2) 特別支援教育のセンター的役割をより効果的に果たすべく、地域支援センターの機能や運営を改善・整理する。 5 組織的な学校運営と、働きがいのある職場づくり (1) 第2期京都府振興プラン等京都府の施策を見据え、同時に「働き方改革」を踏まえて、円滑で機能的な学校運営に向けた組織や業務の改善を進める。 (2) 学部を超えた「協働体」として、教職員間のコミュニケーションを図り、相互理解のもとに全教職員で全児童生徒の教育活動に当たる。 (3) 時間外勤務の縮減、メンタル不全等の未然防止、職場復帰への支援など、職場環境や業務の改善にむけた具体的方策を進める。	
<b>【経営方針】</b> 1 安心で安全な教育環境を整え、組織的、計画的で効果的な学校経営を推進する。 2 いのち、健康及び人権の尊重を基本に、児童生徒一人一人の障害や教育的ニーズ等に応じた指導を充実する。 3 卒業後の自立と社会参加を目指して、児童生徒がそれぞれのライフステージでのキャリアを積めるよう、主体的に学び合う、質の高い授業づくりや教育活動を推進する。 4 医療、保健、福祉、労働及び教育の関係諸機関と連携し、児童生徒(保護者)の願いを基に、生涯にわたる一貫した支援を推進する。 5 センター的機能を発揮し、支援ネットワークの構築を通して、地域における特別支援教育の充実を図る。 6 地域に開かれ、地域と共にある、特色ある学校づくりを進め、インクルーシブ教育を推進し、「共生社会の形成」に貢献する学校を目指す。		<b>【教育課程・学習指導】</b> ・キャリア教育に視点を当てた支援者会議が定着した。12年間を見通した系統的な取り組みにつなげていく必要がある。 ・ICT機器の活用が進んだ。今後は利点を生かした実践を目指していく。 ・成年年齢引き下げを意識した学習を進めることができた。今後は長期的な学習計画作成を進めていく必要がある。			
<b>【支援・地域連携】</b> ・地域資源や人的資源を学習に取り入れることができた。さらに活用できる資源の開拓や効果的に学習に取り入れる工夫が必要である。 ・校外の相談員と連携し巡回相談を年間のべ300件実施することができた。2人体制であるがオンライン等を有効に活用した。					

	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
				部門	総合	
組織・運営	学校経営	・経営方針に沿った学校作りを全職員で進めていく学校運営を行う。	・校務分掌の見直しにより、学校課題解決に向けた役割を明確にする。 ・学校運営協議会の意見を参考に学校経営に生かす。 ・全教職員で全児童生徒の教育活動に当たるための、取組や会議の充実を図る。	○	○	・組織の見直しにより役割の明確化が図れた一方で、業務の移管については年度当初に設定できなかったため混乱を招いた部分もあった。学校規模に合わせ、校務と学部運営の円滑な連携により必要となってくる。 ・学校運営協議会を4回実施し、MINAMILABOや地域・大学との連携について助言をいただき、取り組みに生かすことができた。
		・卒業後の自立と社会参加を目指した、教育活動を推進する。	・授業者支援者会議を継続し、キャリア発達の支援を意識した質の高い授業を展開する。	○	○	・自立と社会参加を目指す指導力向上のためのナビゼミの導入を進めた。視聴するための時間設定など活用しやすい環境設定に課題があった。 ・児童生徒の変容を見とることを「やりがい」と定義し、自立的に行動するための授業モデルを職員会議にて発表した。時間外在校等時間45時間以内が9割となっている。
		・職場環境や業務の改善に向けた取組を進める。	・働き方改革プロジェクトを中心とし、「やりがい」に視点を当てた働き方改革を進める。 ・組織や校務業務内容を変更してきた効果について検証を行う。	○	○	
安心安全危機管理		・いのち、安心安全を重視した取組を推進する。	・3領域の課題把握と課題解決に向け、外部講師を積極的に活用した学習を展開する。 ・いじめ防止基本方針を軸に人権意識の高揚を図る。 ・年齢や発達に合せた課題設定により、避難訓練等の充実を図る。 ・スクールバスの乗せおろし忘れがないよう安全管理マニュアル遵守を徹底する。	△	○	・9月に生徒が階段から転落するという重大事案が発生した。未然に防ぐ意識と事後の円滑な対応については課題があった。 ・学校安全については、3領域において積極的に外部講師を招き児童生徒並びに教員の学びを深めることができた。
		・医療的ケアを適切・安全に実施する。	・医療的ケア安全委員会を中心とした研修を計画的に行う。 ・個別の緊急対応訓練を複数回実施する。	○	○	・車いすの児童生徒のスムーズな避難を目標に入れた避難訓練を実施し、避難経路や連絡方法について共有することができた。 ・医療的ケア実施可能な教員を増やすことができた。 ・緊急対応訓練では役割の確認などを進めることができたが、複数回の実施には至らなかった。
研修育成研究活動		・自立活動の視点でのアセスメント力の向上を目指す。 ・ICTを効果的に活用した実践を充実させる。	・自立活動部とクラス・グループとの連携を強化するとともに、流れ図研修などを実施する。 ・実践交流や、他校の実践紹介など、効果的な活用についての情報発信を行う。	○	○	・抽出した児童生徒について流れ図を作成することができた。教員全体のアセスメント力・授業力向上に向けて、次年度は自立活動を研究テーマとしていく。 ・ICT活用については、不登校生徒の学習保障など進めることができた。効果的なICT活用については、さらなる活用方法が期待できる。
		・卒業後に必要な力を明らかにし、卒業後を見通したキャリア教育の視点でのカリキュラム作成を進める。	・12年間を見通し、各段階で「つきたい力」を明確化する。	○	○	・架け橋研究・授業者支援会議等でキャリア教育の視点での授業作りについて検討することができた。キャリアパスポートやⅢ表の効果的な活用についてさらに検討を行っていく。
教育課程・学習指導	学習指導	・学校教育目標である「学び合い 育ち合い」を目指した授業改善を進める。 ・地域資源を活用した授業を充実させる。	・「学び合い 育ち合い」を進めるための支援について共有を図る。 ・地域資源活用の取組を各部で継続的にを行い、発展させる。	○	○	・学部におけるグラウンドルールや授業者支援会議を通して、期待する姿や支援の共有を進め、授業改善につなげることができた。中高連携・小中連携による12年間のつながりを明らかにしていくことが課題である。
		・成年年齢の引き下げに伴った主権者教育・消費者教育・性教育等の充実を図る。 ・適切な生徒指導を行い、事象の共有化を図る。	・中高等部生徒について、成年年齢の引き下げを念頭に置いた系統的な学習を進めていく。 ・SCやSSWとの連携を充実させる。	○	○	・成年年齢に引き下げを機とした新たな学びは実施できなかった。今日的課題でもあるSNS・性などの生活安全について外部講師を招いた学習を実施することができた。 ・必要に応じてSC・SSWを活用することができた。
		・家庭と連携し、卒業後をイメージした学びを進める。	・保護者への発信を充実させる。 ・教職員へ進路意識を高める研修等を行う。	○	○	・希望進路の実現に向けた進路指導を行うことができた。 ・保護者に向けて、卒業後に必要な力と現在の学びのつながりについて発信することができた。PTA研修会でのOB保護者との懇談が好評だったことから、発信を続ける必要がある。
地域連	地域支援・連携	・地域の支援力向上のために相談支援を進める。 ・教育、保健、福祉等とのネットワークの力で支援や連携を進める。	・府の専門家チームや本校の地域巡回相談員と巡回相談を行う。 ・圏域内の通級指導教室や各校の特別支援コーディネーターのネットワーク強化をはかる。 ・関係者会議やケース会議にSSW等地域のリソースを積極的に導入して取り組む。	◎	○	・南山城相談支援センターへの校区内園・校からの依頼は相談支援400件、研修支援30件にのぼり、地域ニーズに応えることができた。 ・必要に応じたケース会議の実施、SSWの活用を進めることができた。

～携	地域教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>MINAMILABO構想を実現させ、地域活用・地域への発信、地域との連携を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携推進部を中心として、具体的目標・方策を提案する。「何を変えていくのか」を明確にする。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>100件以上の地域開拓と学部ニーズに合わせた活用、つながルームの地域開放を進めることができた。MINAMILABO構想の一つである、ほんの森については大学との連携が必要であったことから地域連携推進部が担っていたが、図書部への移管を進めていく。</li> </ul>
学校運営協議会による評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>MINAMILABO棟は地域との連携に活用してほしい。つながり・発信を期待する。</li> <li>自立活動をテーマとした研究活動により、教員の力量向上を目指してほしい。</li> </ul>			
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心安全な学校であるための意識向上・役割の明確化</li> <li>自立活動をテーマとした研究推進活動の充実</li> <li>ICT機器の効果的な活用(授業・働き方等)</li> <li>MINAMILABO運営の充実</li> </ul>				